

項目	A	B	C	＜検査の意義と見つかる病気＞
	6-14歳	6-14歳	0-14歳	
病歴の聴取と一般診察	○	○	○	発育・発達、内臓、ホルモンなどの大きな問題に気が付ききっかけになります
血球数	○	○	○	貧血、白血球数の異常は感染症や疲労感、情緒への影響が考えられます
空腹時血糖値	○			糖尿病やその前段階である耐糖能異常を見つけます
総コレステロール/ 中性脂肪	○	← 食事制限		脂質異常（家族性が多い）は将来動脈硬化などの成人病につながります
善玉・悪玉コレステロール	○			
SGOT(ALT)	○	○		肝機能障害
SGPT(AST)	○	○		
尿素窒素	○			腎機能障害
クレアチニン	○	○		
視力&色盲検査	○	○	○	近視乱視は集中力に影響します
歯科検診	○	○	○	虫歯は予防と初期治療が大切です
心電図	○	○		運動、特に水泳や長距離走が負担になるかどうかを判断します
聴力検査（医師の診察なし）	○			生後のウイルス感染による軽度難聴が時々見つかります
胸部レントゲン	○	○		心臓の大きさ、喘息傾向、骨格の問題などを評価します
尿検査一般	○	○	○	【重要】血尿・たんぱく尿の早期発見によって将来の腎不全を予防することになります
便検査一般（寄生虫）	○	○	○	寄生虫感染を調べます
合計（パーツ）	5,600	3,800	2,500	

A（フルセット）：これだけやっておけばまず安心。目に見えない体の異常も見逃さない

B（幼児～低学年向け）：検査前の絶食ができそうにない低年齢のお子さん向け

C（ミニマム）：学校で心電図は検査した、気管支炎などで最近レントゲン検査をしたなど、最小限の検査に留めたいお子さん向けのセット